

NPO木材・合板博物館

内装の木質化推進

設計マニュアルで後押し



木質建材メーカーにマニュアルの進ちょく状況を報告し、情報提供を呼びかけ

NPO法人木材・合板博物館(吉田繁理事)は、一級建築士などの設計者向けに、鉄筋コンクリート造や鉄骨造などの大型建築物で使用できる内装用木質建材をまとめた設計マニュアルを制作する。大型建築物の内装は、建築基準法や関係省庁による防火の内装制限などで法的解釈が複雑化しており、構造部分と比べて木質化が遅れていた。そこで、複雑な現行法を解釈・整備することで内装の木質化を促す。また、内装用木質建材メーカーには、現在国内で調達可能な建材の情報提供を呼びかけており、業界全体で大型建築物の内装木質化を後押しする。

同博物館による取り組みを代表して、中高層木みは、2013年8月に「造建築や耐火木造建築のスタートした。設計事務 開発などを進めるNPO

法人チームティンパライズのメンバーや、木質材料による内装仕上げマニュアルを発行した公益財団法人日本住宅・木材技術センターなどが参画。設計士が実務で使えるわかりやすい木質内装関連マニュアルを策定し、RC造やS造の大型建築物の内装での木材利用を促進するのを目的とした。現在作成中のマニユア

ルは、内装制限に関するさまざまな法律を、学校や体育館などの用途別、耐火建築物などの構造別、規模ごとに、一つの表で一覧できるようにする。さらに、壁や床、天井などの部位別に使用可能な木質建材を示す。「大型建築物の内装は、関連法規が多く、制限の内容がわかりにくい」と、結果として不燃材を

使用してしまう。しかし、関連法規を整理してみると、条件によっては準不燃材や難燃材、一般製材品が使用できる部分が多い。これらの法規制をマニュアルにわかりやすくまとめることで、内装用木質建材のテコ入れをする(事務局)と意気込みを話した。マニユアルは3月末をメドに作成し、完成後は

RC造やS造の大型建築物を手がける一級建築士などに配布する。

情報提供呼び掛け

同博物館が内装用木質建材メーカーに提供を依頼する情報の内容は、①メーカー名②使用部位③樹種④サイズ(厚み)⑤塗装の有無⑥素材のみかシステムか⑦設計価格⑧使用事例(写真)……。情報提供の送付先は、raison@woodmuseum.jp。提出期限は6月末までとしたが、期限を過ぎても随時受け付ける。マニユアルに関する問い合わせは、同博物館内・内装木質化委員会へ。提供された情報は、設計マニュアルの巻末に、現在国内で調達可能な内装木質建材の一例として掲載する予定とした。

